

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人三重県文化振興事業団	
施 設 名	三重県総合文化センター 三重県文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,564	(千円)
公演事業	20,060	(千円)
人材養成事業	4,253	(千円)
普及啓発事業	3,251	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1 ※	みえ音楽発信 vol.10 ベートーヴェン生誕 250周年事業	9月～12月	ピアノソナタ全曲演奏会 ほか 出演：上野真、東誠三 ほか	目標値	4,000
		小ホール		実績値	1,737
2 ※	三重県文化会館 produce ソリストシ リーズ	8月～9月	出演：上野耕平（サクソフォン）、田村緑、 中川賢一（ピアノ） ほか	目標値	2,616
		大ホール		実績値	968
3 ※	角田鋼亮指揮 新日本フ ィルハーモニー交響楽 団	—	コロナ禍により延期	目標値	1,143
		—		実績値	—
4 ※	藤岡幸夫指揮 新日本フ ィルハーモニー交響楽 団	3/13（土）	曲目：ベートーヴェン 交響曲第7番 イ長調 Op.92 ほか ソリスト：阪田知樹（ピアノ）	目標値	1,143
		大ホール		実績値	545
5 ※	第七劇場 チェーホフ 「かもめ」	10/30（金）～11/1（日）	構成・演出・美術・訳：鳴海康平 出演：春日井一平、布施安寿香（SPAC） ほか	目標値	315
		小ホール		実績値	268
6 ※	ミエ・演劇ラボ 2021 発 表公演	3/7（日）	総合ファシリテーター・演出：柳沼昭徳 舞台技術指導：有限会社現場サイド 出演：澤雅展、公募参加者	目標値	入場者 240 参加者 10
		小ホール		実績値	入場者 57 参加者 9
7 ※	朗読アウトリーチ M- PAD2020	11月	演目：夢野久作「死後の恋」 ほか 上演団体：百景社 ほか	目標値	400
		県内飲食店等		実績値	508
8 ※	ハイバイ 「投げられや すい石」	12/5（土）・6（日）	作・演出：岩井秀人 出演：井上向日葵 ほか	目標値	240
		小ホール		実績値	161
9 ※	青年団「眠れない夜なん てない」	2/13（土）・14（日）	作・演出：平田オリザ 出演：山内健司 ほか	目標値	240
		小ホール		実績値	176
10 ※	イタリア・バーリ歌劇場 オペラ「アイダ」	—	コロナ禍により中止	目標値	985
		—		実績値	—

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
11 ※	ニューイヤー・コンサート 2021 ウィーン・シユトラウス・フェスティバル・オーケストラ	—	コロナ禍により中止	目標値	1,597
		—		実績値	—
12 ※	ロロ 「四角い2つのさみしい窓」	—	コロナ禍により延期	目標値	240
		—		実績値	—
13 ※	FUKAIPRODU CE羽衣新作公演	9/12(土)・13(日)	作・演出・音楽・美術：糸井幸之介 出演：深井順子 ほか	目標値	240
		小ホール		実績値	144

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1 ※	第27回 新日本フィル演奏クリニック	—	コロナ禍により中止	目標値	500
		—		実績値	—
2 ※	三重ジュニア管弦楽団育成事業2020	通年	講師：新日本フィルハーモニー交響楽団員ほか	目標値	約60
		センター各所		実績値	49
3 ※	第23回舞台創造講習会	—	コロナ禍により中止	目標値	300
		—		実績値	—
4 ※	青年団監修 戯曲アカデミア	8月～3月	講師：平田オリザ、松井周	目標値	30
		センター各所		実績値	27

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1 ※	新日本フィル 29 市町巡回事業	—	コロナ禍により中止	目標値	1,000
		—		実績値	—
2 ※	OiBokkeShi × 三重県文化会館	通年	講師、発表公演作・演出：菅原直樹 (OiBokkeShi 主宰)	目標値	100
		いなべ市北勢市民会館		実績値	182
3 ※	クラシック・レクチャー	2/16 (火)	講師：加羽沢美濃 (作曲家・ピアニスト)	目標値	200
		小ホール		実績値	88
4 ※	文化体験パートナーシップ活動推進事業	通年	プログラム提供団体：三重県三曲協会 ほか	目標値	2,300
		県内小学校		実績値	1,710

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

私どもが第5期指定管理者（令和2年度～令和6年度）中長期事業計画で掲げるミッションは以下3点である。

- ① 県民に愛され、誇りとなる劇場づくり
- ② 文化交流ゾーン連携と拠点機能の強化
- ③ アートの社会的効用の発揮

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、4月から6月にかけて及び1月の主催事業、貸館事業がほぼ全て中止・延期を余儀なくされ、劇場運営全般に大きな影響が生じた。助成対象事業についても、海外招聘公演をはじめ7事業が中止・延期となり、実施できた事業も一部計画を修正しての開催となった。

このような逆風下においても7月には全国に先駆けてイベントを再開し、「みえ音楽発信 vol.10 ベートーヴェン生誕 250 周年事業」「三重県文化会館 produced シリーズ」「青年団演劇公演」など、安全対策を徹底してホール公演を実施した。その結果、ホール公演の年間満足度は過去最高となる97.1%を記録するなど、イベント再開を待ち望んでいた来場者から高い評価を得ることができた。

また、アートの社会的効用の発揮では、「アートと教育」で学校アート出前授業をのべ48回開催し、1,710人の児童が参加したほか、「アートと福祉」で「老いと演劇事業」をいなべ市と共催で実施し、介護と演劇の体験講座や巡回公演に取り組んだ。その他「アートと経済」では飲食店リーディングフェス「M-PAD2020」に取り組んだ。

以上の通り、ミッションに即して効果的な事業展開が図られていると自己分析している。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成財源のおかげで、予算規模が大きいものの当館のミッションから取り組むべき新規事業を創出している。介護や老いの社会課題に演劇で向き合う「0iBokkeShi × 三重県文化会館 老いと演劇事業」では、いなべ市と共催で体験講座や巡回公演を県北部で初めて実施し、地域に大きなインパクトを生み出した。また県内若手ピアニストが多数出演し、ピアノソナタ全32曲を完奏した「みえ音楽発信 vol.10 ベートーヴェン生誕 250 周年事業」も大成功に終わり、若手アーティスト育成や鑑賞者開発に大きく寄与した。

また、地域の飲食店とコラボレーションした朗読フェスティバル「M-PAD2020」は、コロナ禍で開催が危ぶまれたものの万全の感染対策によって無事開催することができ、ほぼ例年並みのお客様にイベントを楽しんでいただけたほか、コロナ禍で落ち込む飲食店の売上にも貢献できた。その他にも学校へのアート出前授業「文化体験パートナーシップ活動推進事業」も48校で開催することができた。

以上の通り、助成財源によって文化的・社会的・経済的意義のある活動を積極的に展開している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1) 公演事業の目標達成状況は以下の通りであった。

①音楽ジャンルの自主制作・プロデュース公演

【目標】公演満足度（5段階評価上位2位）95%以上、来場者総数6,616人以上

【実績】公演満足度97% 来場者総数2,705人 ※一部公演中止のため

②新日本フィルハーモニー交響楽団定期公演 【実績】2公演とも令和3年度に延期のため実績なし

③演劇ジャンルの自主制作・プロデュース公演

【目標】公演満足度（5段階評価上位2位）95%以上、来場者総数555人以上

【実績】公演満足度93%、来場者総数325人

④「M-PAD」

【目標】事業満足度（5段階評価上位2位）90%以上、来場者総数460人以上

【実績】事業満足度96.1%、来場者総数508人

⑤ハイレベルな舞台芸術鑑賞機会の提供事業を含むホール公演事業

【目標】年間公演満足度（5段階評価上位1位）60%以上、年間来場者総数20,000人以上

【実績】年間公演満足度70%、年間来場者総数2,647人 ※一部公演中止のため

⑥英語版パンフレット配布、点字パンフレット配布

【目標】英語版パンフレット配布公演数6公演、点字パンフレット配布公演数11公演

【実績】英語版パンフレット配布公演数7公演、点字パンフレット配布公演数3公演

2) 人材養成事業の目標達成状況は以下の通りであった。

①新日本フィルハーモニー交響楽団による人材養成事業

【目標】事業満足度（5段階評価上位2位）90%以上、参加者総数475人以上

【実績】事業満足度95%、参加者総数49人 ※クリニック事業は中止

②第七劇場による人材養成事業 【実績】事業中止により実績なし

③青年団監修・戯曲講座

【目標】参加者総数20人以上 【実績】参加者総数27人

3) 普及啓発事業の目標達成状況は以下の通りであった。

①新日本フィルハーモニー交響楽団による普及啓発事業 【実績】事業中止のため実績なし

②‘介護を楽しむ’‘明るく老いる’アートプロジェクト

【目標】1カ所以上の巡回公演を実施 【実績】1/17（日）いなべ市で巡回公演を実施。入場者数182人

③「加羽沢美濃のクラシック音楽講座」

【目標】参加者総数200人以上、事業満足度（5段階評価上位2位）90%以上

【実績】参加者総数225人、事業満足度はコロナ禍によりアンケートを見送り

④学校アート出前事業

【目標】実施校数65校以上 【実績】実施校数48校

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間】

令和2年度事業計画64事業に対し、新型コロナウイルスの影響で39事業が中止・延期を余儀なくされた。その他事業は一部で年度内日程変更が生じたものの、ほぼ計画通りの期間と開催日で実施した。

【事業費】令和2年度事業計画の各数値と事業報告の各数値は以下の通りとなった。

- ① 年間総事業費 計画172,873,675円に対し、報告69,768,923円
- ② 年間総収入 計画107,873,675円に対し、報告33,681,146円
- ③ 年間収支差額(①-②) 計画65,000,000円に対し、報告36,087,777円

コロナ禍でチケット収入は大きく減収となったものの、それ以上に事業中止による事業費減少額の方が大きく、年間収支差額(県費補填額)は29百万円弱減少した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

現館長の梶吉宏が平成13年度に就任し、(株)ヤマハや音楽之友社在籍時代からの音楽人脈と館長就任後に築き上げた地元音楽団体との強固なパートナーシップを基に、次々と三重オリジナルの企画を立ち上げている。三重ジュニア管弦楽団の指揮者兼事務局長として人材育成に関わるほか、100回を超えた看板シリーズ「ワンコインコンサート」を立ち上げ、地元音楽団体と連携した0歳児から入場可能な「ヘンゼルとグレーテル スライドコンサート」や、「三重県出身演奏家シリーズ」などオリジナルコンサートを次々とプロデュースしている。また、今年新たに三重ゆかりのピアニストらが多数関わる「三重音楽発信 vol.10 ベートーヴェン生誕 250 周年事業」を企画し、ピアノソナタ全曲演奏会など年間を通じて劇場の賑わいを創出している。

演劇分野では現副館長兼事業課長の松浦茂之が平成19年度に現部署に異動し、全国的にも注目を集める多彩な事業を展開している。小ホール24時間連続使用による「Mゲキセレクション」をはじめ、地元演劇人育成と創作を兼ねた「ミエ・演劇ラボ」、アウトリーチプログラム「料理を楽しむ 演劇を楽しむ 秋のおたのしみ M-PAD」、高齢社会に対するアートの効用を実践検証する「‘介護を楽しむ’ ‘明るく老いる’ アートプロジェクト」等をプロデュースしている。

フランチャイズ団体としては平成9年に新日本フィルハーモニー交響楽団と関西拠点契約を締結し、年2回の定期演奏会、三重ジュニア管弦楽団の指導、新日本フィル演奏クリニックなどの人材養成事業に力を入れている。また東京から三重へ拠点移動した劇団・第七劇場は準フランチャイズカンパニーとして位置付けており、日台国際共同制作演劇など毎年新作公演を当館がプロデュースしている。その他、劇団・青年団とは平成13年度から強固なパートナーシップを構築しており、隔年での劇団公演開催をはじめ、平田オリザ氏が講師を務める「青年団監修 戯曲アカデミア」など人材養成事業に協力いただいている。

公演事業では海外招聘作品のオペラ公演、バレエ公演はコロナ禍により中止となったものの、関西拠点契約に基づく新日本フィルハーモニー交響楽団の定期公演、三重オリジナルの洋楽制作事業「三重音楽発信」、青年団やハイバイをはじめとする地方ではなかなか招聘が難しい小劇場演劇公演、準フランチャイズカンパニー・第七劇場の新作プロデュース公演など、非常に多彩で個性的なラインナップとなっている。また、令和2年度は新たに英字パンフレットと点字パンフレットを開始し、多様な顧客に対してアクセシビリティの向上を図っている。

人材養成事業では開館から続く「新日本フィル演奏クリニック」、高校生演劇部員を対象とした「舞台創造講習会」はコロナ禍により中止となったものの、小学3年生から高校3年生を対象にした「三重ジュニア管弦楽団育成事業」と、演劇界を牽引するトップランナー、青年団主宰・平田オリザをメイン講師に据えた「青年団監修 戯曲アカデミア」は例年通り実施し、質の高い人材養成事業を展開している。

普及啓発事業ではユニークな社会包摂事業として全国から注目を受けている「0iBokkeShi × 三重県文化会館 老いと演劇事業」を、今年はいなべ市と共催で初めて県北部で開催した。講師であり巡回公演の作・演出も務める菅原直樹氏は今や全国で引っ張りだこであり、介護と演劇の体験講座、老いのプレーパークメンバーによる巡回公演は、いずれもいなべ市で大きなインパクトを創出し、来年は早くも県南部の尾鷲市での開催が決定している。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当館の公演事業の多くは、三重県では当館でしか鑑賞する機会がないハイレベルな公演、オリジナル企画が主体であり、音楽、舞踏、演劇、伝統芸能など多様なジャンルを取り上げていることも含めて、リーディングホールとしての役割を發揮している。

人材養成事業では三重県には芸術文化専門の大学や芸術文化の学部・学科を設けている高等教育機関がないため、プロアーティストの指導を受けられる機会がほとんどなく、実演芸術の技量向上を図る機会やアートマネジメントを学ぶ機会の提供は当館にその役割が求められている。音楽分野で「新日本フィル演奏クリニック」「三重ジュニア管弦楽団育成事業」などの人材養成事業が地元演奏家の技量向上に寄与しているのをはじめ、演劇分野では劇作家輩出を目指した「青年団監修 戯曲アカデミア」、演劇人輩出と創作を兼ねた「ミエ・演劇ラボ」などの実演家育成に取り組んでいる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当事業団は業界では数少ない IS09000 の認証登録を受けている公益法人であり、組織と業務運営全般に P D C A サイクルに基づくマネジメントシステムが確立している。

また、指定管理者制度が始まって以来全ての経費が圧縮基調であるのに対し、人件費だけは人員数はそのまま 5 千万円強増加しており、それらは全て職員の処遇改善や研修支援・福利厚生に充てられている。当事業団の経営改革や組織改革は先進事例として全国の研修会に招聘され、各地の劇場から視察を受け入れている。下記事例にあるような当事業団独自の組織づくりと人材育成を推進している。

1) 職員登用制度

3 年有期雇用の専門員から無期雇用の年俸制専門員へ、更に正規職員へと内部登用制度が整備されており、雇い止めの無い、職員のやる気が出る人事制度が確立している。

2) 研修制度

全ての職員の業務要件が明確化され、不足している業務スキルに対して個人ごとに①集合研修、②外部派遣研修、③OJT の年間研修計画が組まれている。資格取得や海外派遣研修も積極的に推奨しており、充実した研修制度となっている。

3) 福利厚生制度

職員の自己研鑽活動に対して、一人年間 2 万 5 千円を支給するカフェテリアプランをはじめ、復職再雇用制度（ジョブ・リターン）など、職員の働きやすさや満足度向上に取り組んでいる。